

令和8年度「親の育ち」家庭教育支援者養成講座

本年度の『親の育ち』家庭教育支援者養成講座』では、既に子育てネットワーカーとして活動している方、これから子育てネットワーカーを志す方、家庭教育や子育てに興味がある方など、100名を超える受講者が参加されました。

研修を終えた方が、今後、「子育てネットワーカー」として、各市町村で子育てや家庭教育に奮闘している保護者を支援する立場として御活躍いただけることを期待しています。

＜講座の内容＞ ※ 2日はオンライン、1日は会場参加とオンライン参加によるハイブリッド方式で開催

講座	開催日	内 容
1	7月16日 (木)	単位C：①「県の家庭教育支援施策の動向」「受講者とのつながりづくり」 講師：愛知県教育委員会あいちの学び推進課家庭教育担当
2		②「武豊町としてできる子育て支援 連携と協働」 講師：武豊町こども未来部子育て支援課 岩崎 由紀子 氏
3	8月4日 (火)	単位A：「子供の特性と保護者支援：乳・幼児期編」 講師：岡崎短期大学 准教授 丸山 笑里佳 氏
4		単位D：「家庭教育支援の実際」 講師：清須市家庭教育支援チーム「チームMOMO」 代表 吉田 春美 氏
5	8月17日 (月)	単位E：「家庭教育研修会の講座運営の方法、『親の学び』学習プログラムの活用について」 講師：一宮市子育てネットワーカー 宮崎 初美 氏
6		単位F：「現代の家庭教育に関する課題と展望」 講師：東京学芸大学・こどもの学び困難支援センター 准教授 入江 優子 氏
		単位B：「子供の特性と保護者支援：児童期・思春期編」 講師：愛知教育大学 教授 野平 慎二 氏

＜単位C＞ 県の家庭教育支援施策の動向、受講者とのつながりづくり、武豊町としてできる子育て支援 連携と協働

いろんなところに 3つの力(3つ)



はじめに、県からアウトリーチ型支援の普及・定着に向けた検討の必要性について説明しました。そして、ブレイクアウトルームを使ったグループワークを行い、受講者同士のコミュニケーションを促し、気軽に話せる雰囲気づくりをしました。その後、武豊町の子ども家庭センターの活動の実際について具体的に御紹介いただき、家庭教育支援のために自分たちは何ができるかを考えるよい機会となりました。

＜単位A＞ 子供の特性と保護者支援：乳・幼児期編

保育者養成教育に長年携わっている講師から、乳幼児期の子育て支援の在り方について御講義いただきました。家庭教育支援者がよく出会う相談場面を通して、乳幼児期の発達を理解し、保護者への支援のヒントとすることができました。子供の発達を知ることで、見方や接し方が変わることや保護者の思い・価値観に耳を傾け、それらを大切にしながら子供の発達やかかわり方を前向きな気持ちで伝えることが大切であると教えていただきました。チャット機能を使い、積極的に考えや疑問を出し合うことで、双方向のやり取りをしながら学びを深めることができました。



＜単位D＞ 「家庭教育支援の実際」



昨年度、優良家庭教育推進組織として県から表彰を受けられた、家庭教育支援チームの代表を務めている講師から、実際の活動内容と成果を踏まえ、家庭教育支援において大切にすべきことについて、お話ししていただきました。学校の中にチームの拠点をつくり、学校行事に参加協力したり、教師とは違った立場で子供や保護者の相談にのったりする取組を聞かせていただく中で、地道につながりをつくり、関わる必要であることが分かりました。参加者同士のグループワークでは、実際に支援活動をされて感じていることや、これから活動を始めるにあたって疑問に思っていることなどを情報交換し、今後の参考にすることができました。

＜単位E＞ 家庭教育研修会の講座運営の方法、『親の学び』学習プログラムの活用について

子育てネットワーカーとして活躍されている講師から、自身が講座をとおして得た経験や心構えを基に、どのようにして参加者の気持ちをほぐし、互いに話せるように仕向けていけばよいのか、そのために準備しておくことなどについてお話しいただきました。また、子育てにおけるある一場面を基にしたグループワークを行い、実際にプログラムを進行するために、具体的なエピソードを提示することによって、意見交流を活発化させることができることを学ぶことができました。



＜単位F＞ 現代の家庭教育に関する課題と展望編



大学で家庭教育支援や子供の発達支援の研究に携わる講師から、現代の家庭教育を取り巻く課題や家庭教育支援の在り方について御講義いただきました。家庭教育は、子供の基本的な生活習慣や社会性、自立心を育む重要な役割を担う一方、親子の生活の分離や地域とのつながりの希薄化により支援の必要性が高まっていることを学びました。また、乳幼児期から思春期までの発達の特徴や、子供の成長における地域や学校との関わりの重要性についてお話しいただきました。そこから、家庭教育支援では保護者への学習機会の提供に加え、家庭や関係機関とのネットワークづくりが重要であり、社会全体で子供と家庭を支える視点の必要性について理解を深めることができました。

＜単位B＞ 子供の特性と保護者支援：児童期・思春期

大学で子供の発達や家庭教育支援に関する研究・教育に携わる講師から、児童期・思春期の子供の特性と保護者支援について御講義いただきました。社会の変化に伴い、子供を取り巻く環境が大きく変化する中で、子供の育つ力を信じ、見守ることの大切さについて学びました。また、児童期には体験活動をとおして自己肯定感を育むことが重要であり、思春期には子供の気持ちに寄り添いながら自立を支援する姿勢が求められることについて理解を深めました。さらに、子供の権利やネット社会との関わり方について学び、地域全体で子供の成長を支えることの重要性を学ぶことができました。



＜参加者の声＞

- 子育ての悩みは家庭によって様々であり、それぞれに合わせた支援が必要だと学びました。今後は保護者と共に考える姿勢を大切にしながら、寄り添った支援をしていきたいと思います。
- 子供のよさを認め、励まし、感謝を伝えることが自己肯定感を育むことにつながると改めて感じました。
- 講座運営の方法やアイスブレイクの活用法など、参加者が話しやすい雰囲気づくりについて学ぶことができました。今後の講座や地域活動の運営に生かしたいと思います。
- グループワークでは様々な立場の方の意見を聞くことができ、多くの気づきを得ました。講義内容への理解も深まり、対面で意見交換することの大切さを改めて感じました。
- 子育ては家庭だけでなく、地域や社会全体で支えていくことが大切だと学びました。今後は関係機関や地域の方々と連携しながら、子育て家庭を支える活動に取り組んでいきたいです。